

## 臨床看護実習

担当教員 吉岡 久美、古賀 由紀子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術を基に病院臨床の場でさらに観察し、またこれを実際に行ってみることにより、看護の理解を深める。  
学校保健活動および養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解する。

### 【授業の展開計画】

1. 病院施設、機構、環境、設備を理解する。  
病院における検査機器、医薬品の取り扱い
2. 疾病理解とその対応  
様々な疾病について知り、それぞれの疾病に応じた対応を理解する
3. 対象を理解し、適切なコミュニケーションをはかる  
患者理解とその対応、医療従事者への連絡・報告
4. 看護業務を観察し、可能なことを実施してみる（指導者監督下）
  - ①観察と測定  
情報収集  
バイタルサインのチェック
  - ②環境設備  
施設、環境、設備の理解と整備  
ベットメイキング
  - ③日常生活の援助  
体位変換、病衣・シーツ交換、全身清拭、洗髪、入浴等介助、口腔の清潔、食事介助、経管栄養摂取、排泄介助
  - ④処置  
診察介助、与薬、咽頭前吸引、導尿、包帯法
  - ⑤清潔操作  
滅菌器具及び物品の取り扱い

### 【履修上の注意事項】

実習事前指導の受講をすること  
実習前には、事前指導及び看護学各論・基礎看護技術を復習しておくこと。  
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

### 【評価方法】

実習成績(90%)  
実習出席状況、実習態度、看護実習レポート 看護カンファレンスへの参画、学内実習態度（発表内容等）(10%)

### 【テキスト】

実習要項、実習資料

### 【参考文献】

『基礎看護技術』 メディカ出版 等

## 道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

道徳教育の本質および歴史を踏まえ今日の学校および社会における道徳教育のあり方を理解した上で、「道徳」授業者としての実践的力をもつことができるようになる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会と道徳
2	道徳教育の本質
3	慣習的道徳と反省道徳
4	道徳を教えるということ
5	道徳性 1 (道徳教育の原則からみた道徳性)
6	道徳性 2 (コールバーグの道徳性発達理論)
7	日本における道徳教育の史的展開
8	学校における道徳教育の現状 (新基本法と学習指導要領)
9	道徳教育のための授業論 (道徳教育における「道徳」授業の位置づけ)
10	道徳教育のための教材論 (教材「手品師」に対する批評)
11	徳目主義の問題点
12	道徳授業の指導計画
13	道徳授業の実践と評価
14	道徳授業例
15	道徳教育に関する今後の課題

### 【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。参加的態度で臨むこと。教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

原則として学期末試験 (70%)、小レポート (30%) を評価の対象とする。

### 【テキスト】

『中学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省  
『小学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省

### 【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

## 教職実践演習(養護教諭)

**担当教員** 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

**配当年次** 4年

**開講時期** 第2学期

**単位区分** 要件外

**授業形態** 演習

**単位数** 2

**準備事項**

**備考**

### 【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力が身についているかどうかの確認を行い、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べるができる。

### 【授業の展開計画】

養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

- I 「教師」に関する研究
  - 自己省察（養護実習自己評価紙を基に）（実習担当者）
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ
  - (1) 事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）
  - (2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む）
  - (3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。LD、ADHDをはじめとする特別支援教育に関する実践の基盤
- III 授業研究
  - 模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その1)～(その3)
- IV 健康問題への解決支援
  - 個別指導の場面指導(疾病の場面指導)
  - 個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)
  - 個別指導の場面指導(健康相談)
- V 児童生徒理解
  - (1) スクールボランティアを活用したフィールド学習(1)～(3)
  - (4) フィールド学習の振り返りと評価
  - まとめ・評価

### 【履修上の注意事項】

これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

### 【評価方法】

講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

### 【テキスト】

新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

### 【参考文献】

**養護実習(事前事後指導含む)**

**担当教員** 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

**配当年次** 4年

**開講時期** 第1学期

**単位区分** 要件外

**授業形態** 実習

**単位数** 5

**準備事項**

**備考**

**【授業のねらい】**

①保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べるができる。②保健室に来室する児童生徒に対応する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭像）を描くことができる。

**【授業の展開計画】**

1. 15日間の実習を行うものとする。
2. 実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。
3. 実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

**【履修上の注意事項】**

- ・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること
- ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
- ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
- ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

**【評価方法】**

実習校における評価（70%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（態度、意欲、授業参加等）事前事後指導におけるレポートによる評価（20%）  
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

**【テキスト】**

養護実習の手引き及び配布資料

**【参考文献】**

適宜紹介する

## 養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握（健康観察、保健調査）
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践—3 支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践—4 支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践—6 環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動（保健指導、保健学習、保健便り）
14	養護教諭の実践—8 組織活動
15	養護教諭と研究、養護教諭の倫理

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業に向けた課題を出すので、それについて調べておくこと。  
各回の授業では振り返りを行い、それを授業後にまとめること。

### 【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

### 【テキスト】

- ・養護学概論 編者 岡田加奈子、河田史宝 東山書房
- ・新訂版 学校保健実務必携 学校保健・安全実務研究会 第一法規

### 【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房

## 看護学各論

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

さまざまな疾患や症状の理解を深め、それぞれにおける看護の視点や方法について学習することを目的とする。また、養護教諭の職務の一領域である学校看護に必要な看護学を学ぶ。学校看護は、児童・生徒の生命を守り、健康の維持・増進を図ることを目的とし、また重要な教育活動である意義を理解する。心身のメカニズム、疾病・異常など、臨床看護実習にも必要な知識・技術を習得するとともに、これらを学校看護の教育としての独自性の中にかすことを学ぶ。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護の基礎と看護行為の基本、疾病の経過や治療処置に伴う看護の理解を深める
2	循環器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
3	呼吸器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
4	消化器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
5	造血器系疾患、内分泌疾患・代謝系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
6	泌尿器・生殖器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
7	運動器系疾患の発生机序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
8	脳神経系疾患、精神系疾患の発生机序とその看護を理解する
9	感覚器系疾患に関する病態とその看護を理解する
10	救命救急看護を理解する
11	発熱・腹痛・頭痛・嘔気嘔吐・呼吸困難・けいれんなどの症状別看護を理解する
12	小児看護と母性看護を理解する
13	思春期看護、障害のある方への看護を理解する
14	老年、精神看護を理解する（在宅を含む）
15	ターミナルケアからグリーフケアまでの重要性を理解する

## 【履修上の注意事項】

事前学習として、それぞれの単元で扱う項目に関する事柄を、テキストから拾い上げておき、講義に臨むこと。  
事後学習では、講義終了後にノートをまとめなおし、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深めること。

## 【評価方法】

課題の提出等 20%  
筆記試験（小テスト含む） 80%

## 【テキスト】

養護教諭のための看護学 改訂版 藤井寿美子他 大修館書店

## 【参考文献】

## 基礎看護技術

担当教員 吉岡 久美、柴田 恵子、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

1. 児童・生徒が健康に生活をするための援助法のひとつとして、基礎看護技術を学ぶ。
2. 看護の基礎技術を学習し習得することで、援助過程での活用の意義を理解する。

### 【授業の展開計画】

第1回講義時に担当者等の詳細を説明する  
本強化は講義と演習で学習をすすめるため、項目が前後することもあり得る

週	授 業 の 内 容
1	病床環境調整の必要性とその方法について学習し実践する。
2	生命の兆候を観察する技術を知り、バイタルサインの示す意味と測定方法を習得する。
3	安全を守る技術を習得し、安楽な体位を理解して移動等の支援の実践方法を習得する。
4	運動と休息が身体に及ぼす影響を理解し、体位とバイタルサイン、運動の援助方法を習得する。
5	栄養管理を含めた食事の重要性を理解し、形態、摂取方法について理解する。
6	排泄の意義・目的を理解し、その管理方法と援助について実践する。
7	身体の清潔の目的を理解して、衣服管理・交換方法を含めた援助を実践する。
8	身体の清潔の目的を理解して、身体保清の具体的方法を習得する。
9	身体状況に応じた褥法の適応を理解して実践し、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術を理解し、対象者の理解と看護の役割を知る。
11	感染の危険性を再確認し、その具体的予防としての管理方法、清潔操作、創傷管理等を実践する。
12	与薬についての知識を深め、薬剤の管理と投与方法を理解する。
13	安楽な呼吸のための吸引、吸入の目的と種類を理解し、手技と管理方法を習得する。
14	救急救命処置の技術を理解し、緊急時の判断ができる能力を習得する。
15	危篤・終末時の意味を知り、心理・生理的变化を踏まえて死を迎える時の援助を習得する。

### 【履修上の注意事項】

- ・演習は動きやすい服装（ジャージ等）と靴を準備すること
- ・準備物等は掲示板にて連絡するため、確認しておくこと
- ・講義および演習の構成上、展開計画の流れが変更となることがあるが、事前に掲示するため注意し、十分に事前学習をしてレポート作成すること
- ・事後学習では、関連する疾病や状態像と合わせて理解を深め、課題に取り組むこと。

### 【評価方法】

筆記試験 70%      学習への取り組み, 課題の提出 30%

### 【テキスト】

基礎看護技術（メディカ出版）

### 【参考文献】

養護教諭講座3 新版 基礎看護学（東山書房）

## 教職論

担当教員 新任教員

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

教師に求められる資質能力は、教職という仕事に対する使命感と責任感、専門的知識、児童生徒に対する教育的愛情、豊かな人間性と教養及びこれらを基盤とした実践的指導力です。本授業では教師の仕事について具体的に考えるとともに、将来、教する目指す学生の皆さんに教職の魅力とやり甲斐について伝えていきたいと考えています。”

### 【授業の展開計画】

教職論は予習が必要です。教科書の各章の終わりに問1～問3があります レポート課題は、下に書いています。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことをコピーして貼り付けることはしない。まとめのシートを配布するので復習することも必要です。”

週	授 業 の 内 容
1	教職論の授業説明
2	1章「学校を考える」(教科書1～18頁) レポート課題は問1。
3	2章「いじめについて考える」(教科書87～90頁) レポート課題は問2。
4	3章「不登校について考える」(教科書91～93頁) レポート課題は問3。
5	5章「授業を考える」(教科書62～77頁) レポート課題は問3。
6	6章「生徒指導を考える」(教科書78～93頁) レポート課題は問1。
7	7章「特別支援教育を考える」(教科書94～101頁) レポート課題は問1。
8	8章「道徳教育を考える」(教科書102～116頁) レポート課題は問1。
9	9章「特別活動を考える」(教科書117～125頁) レポート課題は問1。
10	10章「総合的な学習の時間を考える」(教科書126～140頁) レポート課題は問1。
11	11章「学級経営を考える」(教科書141～153頁) レポート課題は問1。
12	12章「学校事故を考える」(教科書154～165頁) レポート課題は問1。
13	4章「教育評価を考える」(教科書48～61頁) レポート課題は問1。
14	13章「学校・保護者・地域の連携を考える」(166～174頁) レポート課題は問2。
15	12章「危機管理を考える」(教科書157～165頁) レポート課題は問2。

### 【履修上の注意事項】

レポートは授業当日に集める。後で出しても受け付けない(提出してないことになる)。授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない。授業中は教室を勝手に出ない(トイレは事前に済ませておく)。欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

### 【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する(追再試はしないので再履修となる)。特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

### 【テキスト】

川野司著『実践！学校教育入門』昭和堂

### 【参考文献】



## 教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

学校の内外における「教育」という営みを歴史的、思想的観点からみることを通して教育の本質と意義について理解する。具体的には、教育の理念と制度、教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識を習得し、学校現場における教育実践に求められる教育の原理を理解する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	わが国における教育歴史と思想（3）今日
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

### 【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。  
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。  
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

### 【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

### 【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

## パーソナリティの心理

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人の日常生活と深いかわりを持っているのが人格や性格である。本来、パーソナリティというのは英語文化圏で使用されてきた言葉であるが、この授業では、その中の性格心理学のスタンスから現在までの心理学的に蓄積されてきた知見や定義、理論、の基礎を学び、その形成、変化と一貫性、家族やコミュニケーションでの現れ方、更には文化との関係などについて講義する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	パーソナリティ理論
2	パーソナリティの形成
3	発達を規定する要因
4	発達段階と発達課題
5	知能・社会性・人間関係の発達
6	学習のメカニズム
7	学習意欲と無気力
8	不登校・いじめ・非行など児童生徒の課題
9	こどもの不応とストレス
10	軽度発達障害と心理的援助技法
11	パーソナリティにおける遺伝と環境
12	乳幼児の個人差
13	パーソナリティと気質
14	パーソナリティの測定方法
15	パーソナリティと血液型性格

## 【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、講義過程において、数回の心理アセスメントを実施し、受講生の自己理解を深めるようなアプローチを計画している。

\*本講義は「再試験」を実施しないので、注意すること。

## 【評価方法】

出席を重視した学則どおりの運用（単位認定資格の確保）を行う。また、評価に関しては授業過程での心理アセスメントに関するレポート提出、及び学期末の課題設定による「時間内レポート」により評価する。学期末の「時間内レポート」評価は全評価の約80%とし、他の評価を約20%とする。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献】

授業の進行過程で適宜紹介する。尚、教科書内に記載してある参考文献リストが基本的な参考文献となる。

## 教育行政論

担当教員 新任教員

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。また授業は3つのセクションで行う。第1セクションは発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題の説明である。第2セクションは、Report課題（予習）のグループ討論（話し合い学習）を行う。第3セクションは、授業の振り返りである。またまとめのプレゼンシートを配布するので復習することも大切です。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育行政論へのいざない
2	協同学習についての説明
3	LTD学習を考える「主体的に学ぶ授業のすすめ」
4	1章「教育行政と教育行政学」教科書7～13頁3行目
5	1章「教育行政と教育行政学」教科書7～13頁3行目
6	3章「教育を受ける権利の保障」31～40頁1行目
7	3章「教育を受ける権利の保障」40頁2行～46頁
8	4章「学校の管理と経営」47～54頁
9	4章「開かれた学校づくり」55～62頁
10	7章「教育活動を支える諸条件」91～96頁
11	7章「教育活動を支える諸条件」97～101頁8行目
12	9章「教職員の養成・採用・研修と身分保障」119～125頁
13	9章「教員の採用選考・研修・身分保障等」125～132頁
14	10章「教育課程行政と教科書」1と2節
15	10章「教育課程行政と教科書」3と4節

### 【履修上の注意事項】

レポート(手書き不可)は授業当日に集める。後で出しても受け付けない(提出してないことになる)。

授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない

授業中は教室を勝手に出ない(トイレは事前に済ませておく)。

欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。

授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

### 【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する(追再試はしないので再履修となる)。

特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

### 【テキスト】

勝野正章・藤本典裕編「教育行政学(改定版)」学文社

### 【参考文献】

## 教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ①教育課程の意義とわが国における歴史的変遷について説明することができる。
- ②今次の学習指導要領の特徴を横軸（諸外国との比較）と縦軸（歴史的変遷）により説明することができる。
- ③学習指導案を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政（教育課程の三層構造）
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教育課程の構造と類型
10	諸外国の教育課程（アメリカ、イギリス、フィンランド）
11	小・中・高等学校における教育課程
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

## 【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

## 【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

## 【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

## 【参考文献】

『学習指導要領』

## 特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

小中高等学校の学習指導要領を中心に特別活動の歴史の変遷をたどり、教育課程上の位置づけを理解できる。そのうえで特別活動の目標と内容、実践上の諸課題について論じることができるようになる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校教育と特別活動Ⅰ—教育課程における位置づけ
2	学校教育と特別活動Ⅱ—特別活動の基本的性格
3	特別活動の歴史Ⅰ—戦前における課外活動
4	特別活動の歴史Ⅱ—学習指導要領にみる戦後の変遷
5	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅰ—目標の分析・考察
6	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅱ—学級活動の特質と活動内容
7	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅲ—児童会・生徒会活動の特質と活動内容
8	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅳ—学校行事の特質と活動内容
9	特別活動の展開Ⅰ—学校経営案、特別活動計画案、学級活動計画案の検討
10	特別活動の展開Ⅱ—学級活動学習指導案の作成
11	特別活動の展開Ⅲ—学級活動学習指導案の作成及び検討
12	特別活動の展開Ⅳ—児童会・生徒会活動の事例検討
13	特別活動の展開Ⅴ—学校行事の事例検討
14	特別活動と他の教育活動との関連
15	特別活動の実践

### 【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。  
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

### 【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動—理論と実践』ミネルヴァ書房、2015年

### 【参考文献】

## 教育方法論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。授業前半は、発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題（予習）の説明とテーマのグループ討論（Report課題）を行う。授業後半は、質問を投げかけるなど双方向型の講義形式で行う。またまとめのプレゼンシートを配布するので、復習することも大切です。

## 【授業の展開計画】

教育方法論は予習が必要です。教科書には設問3つと考えてみようの問がいくつかあります。その回答をレポートにまとめて授業に臨みます。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことを書いてもいいですが、インターネット内容をコピーして貼り付けることはしない。

週	授 業 の 内 容
1	教育方法論へのいざない
2	「いじめについて考える」（教科書212～216頁）
3	「学校事故を考える」（教科書87～94頁）
4	「学校給食について考える」（教科書208～211頁）
5	「学級担任になったA先生の不安」（教科書34～41頁）
6	「担任と児童との関係を考える」（教科書58～68頁）
7	「不登校を考える」（教科書95～103頁）
8	指導案作成の説明
9	指導案作成の実践（発表グループで作成する）
10	指導案の発表（各グループで作成した指導案を発表する）
11	「学級活動と道徳の違い」（教科書120～124頁）
12	「道徳教育と道徳の時間の違い」（教科書150～155頁）
13	「生徒指導を考える」（教科書175～180頁）
14	「体罰を考える」（教科書193～198頁）
15	「授業中の規律指導」（教科書217～221頁）

## 【履修上の注意事項】

出席確認で携帯を忘れた人は、川野に連絡する。レポート（手書き不可）は授業当日に集める。後で出しても受け付けない。授業アンケートは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない。授業中は教室を勝手に出ない（トイレは事前に済ませておく）。欠席の場合は、友達にレポートを預けて当日に提出を頼むか、事前に川野に提出する。授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする。

## 【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する（追再試はしないので再履修となる）。特に出欠状況とレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

## 【テキスト】

「教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力」昭和堂

## 【参考文献】

## 生徒指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人格形成の視点から、生徒指導に関する基本的理念を学び、今日の生徒指導上の課題に対応するための実践的な考え方をもちることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導とは
2	生徒指導の今日的な意義と課題
3	機能概念としての生徒指導
4	生徒指導の歴史的変遷
5	生徒指導の実際 ①非行・問題行動
6	生徒指導の実際 ②いじめ・不登校
7	生徒理解のための方法と技術
8	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
9	懲戒と体罰
10	校則について
11	進路指導・キャリア教育
12	教育課程と生徒指導 ①各教科と生徒指導
13	教育課程と生徒指導 ②道徳と生徒指導
14	教育課程と生徒指導 ③特別活動と生徒指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

## 【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。  
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

## 【評価方法】

原則として学期末試験（60％）、小レポート（40％）を評価の対象とする。

## 【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

## 【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方、教育相談の位置付け、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。  
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

### 【評価方法】

レポート等20%、試験80%により評価

### 【テキスト】

特になし。随時プリントを配布する。

### 【参考文献】

学校カウンセリング 國分康孝編 日本評論社